

〈入選〉

千葉県 森山さん（40代 女性）

今から数年前のことです。その頃、ちょうど宙に浮いた年金記録が問題になっているときでした。

当時、今は亡き父と母が病と闘いながら、腑に落ちていなかった年金記録の発見のために日夜努力をしていました。二人の住んでいる場所からほど近い、当時のK社会保険事務所に足しげく通って、相談をしておりました。

母からの電話で、K社会保険事務所の人は、とても親身になって話を聞いてくれて、よくしてもらっているが、いかんせん見つからない、という話を聞いておりました。

だんだん家を出ることが出来なくなり、こちらでも何かできないかと考え、最寄りのF社会保険事務所に相談をしました。

その時に対応してくれた職員はTさんという女性の方で、大変感じの良い方でした。

生年月日が違うかもしれない、名前の読み方が違うかもしれない、いろいろなパターンで調べていただき、なんと宙に浮いた記録が見つかったのです。

父も母も大変喜んでくれて、私も親孝行ができたかなと思います。

入金されるまでにはしばし時間が必要でしたが、高齢の夫婦にとってこの臨時収入は本当に有難いものであったと思います。

つつましい生活をしておりましたので、久しぶりにちょっとした贅沢ができたのではないのでしょうか。

他界する前にこのような喜びを経験することができて、娘の私も幸せでした。

ちまたでは、年金事務所の不正や、職員の対応などが非難されておりますが、K社会保険事務所の方々もF社会保険事務所のTさんも、高齢である父や母の気持ちによりそって大変努力をしてくれました。

このようなすばらしい職員の方々がもっとスポットライトをあびても罰は当たらないと思います。

人生も関わる大事な年金です。これまでの良くなかった体制などは反省すべきですが、私たちは、すばらしい職員の方々がサポートしてくれると信じ、安心して年金をかけて大丈夫だと思います。また、よく父や母が後悔先に立たずではないけれど、収入源がなくなって年金生活になったとき、一円でも十円でもたくさんもらえるほうがいい、だからしっかり納付をするだけでなく、付加年金をつけたり基金に加入したり、追納したり、余計な洋服を買うお金があったら年金にまわしたほうがいい、と常常言っていたので、私もそのようにしていこうと思います。

年金制度がこの先どうなるか心配する声もありますが、納めていないものはもらえない、これはどのような世の中になっても変わらないことと思います。納めたものがもらえなくなるときには、日本が滅びるときです。そうならない世の中にしていくことも、私たち大人の使命であると思います。